



ルリーロ福岡通信

ラグビータウンプロジェクト推進係 75 - 3343

ルリーロ福岡ホーム戦



ルリーロ福岡で学生広報をしている久留米大学の小山りんです。令和7年度の最後となる今月号では、うきは市役所の職員として、生涯学習課ラグビータウンプロジェクト推進係でラグビーを通じたまちづくりを担当している石橋大輝さんにインタビューしました。石橋さんのラグビーとの出会いや現在の業務についてのお話をお届けします。

ー石橋さんのこれまでの経歴を教えてください！

「うきは市で生まれ育ち、浮羽究真館高校に入学してラグビーに出会いました。高校2年生のときに、現在も浮羽究真館高校ラグビー部で監督を務め、ルリーロ福岡の創設にも携わった吉瀬晋太郎監督が同校に赴任され、吉瀬先生の初代教え子として指導を受けました。大学でもラグビーを続け、卒業後令和3年にうきは市役所に入庁しました。今年度からラグビータウンプロジェクト推進係でラグビーを通じたまちづくりに携わっています」

ー主にどんな業務に取り組んでいますか？

「今年度は市民の皆さんによりラグビーを身近に感じてもらうため、主に4つのことに取り組んできました。1つ目は、ラグビーを見るきっかけづくりとしてパブリックビューイングを開催しました。2つ目は、小学校の運動会にルリーロ福岡の選手を派遣し、こどもたちと選手の綱引き対決を開催し、とても盛り上がりました。3つ目は、ルリーロ福岡の選手を模擬市長選挙の立候補者に見立てた「1日市長選挙」。4つ目は、ルリーロ福岡の選手たちが小学校の授業でこどもたちに向けて、夢やラグビーのことを話す「夢の授業」の開催です。この他にも、ルリーロ福岡の選手が道路河川愛護へ参加するなど、日常の中で選手と市民が自然に関わることで、選手を通じてラグビーにふれるきっかけづくりを進めています」

ーこれからどんなことに取り組みたいですか？

「うきは市は、フルーツや豊かな自然、白壁の町並みなど多くの魅力を持つまちです。今後はそこにラグビーという新たな魅力を加え、学校や地域の行事、試合観戦などを通して、ラグビーをもっと身近に感じられるまちを目指しています。ラグビーの体験授業やイベントをきっかけに人と人との交流を生み出し、ラグビーを通じて、まちの活力やまちへの愛着につなげていきたいです。私自身がラグビーに育てられた一人として、その魅力を少しでも多くの人に伝えられるようにがんばります！」

2022年6月、うきは市は、うきは商工会、浮羽究真館高校、ルリーロ福岡と連携協定を結び、スポーツを地域の資源として活用し、地域を盛り上げるまちづくりに取り組んでいます。協定締結から3年が経ち、「ラグビーのまち」として少しずつ定着してきたうきは市。石橋さんをはじめとしたたくさんの方々の様々な取組により、これからさらにうきはが盛り上がっていくことを願っています。1年間「ルリーロ福岡通信」をお読みいただき、ありがとうございました！



うきは市とラグビーへの想いを話す石橋さん



パブリックビューイングの様子



こどもたちと綱引きをする選手たち



こどもたちに話す寺脇選手